

社会福祉法人 どんぐりの家 令和6年度 運営方針

今年は元旦より、能登半島地震が発生し社会全体が非常に大きな不安を抱えたスタートとなり、今もなお多くの方々が避難生活を送っておられます。

綾部については、直下型地震を引き起こす断層情報もあり、また昨夏は台風の影響で地域によっては土砂崩れ等大きな被害が発生しました。いつ発生するか分からない自然災害に対し、また感染症に対し、作成したBCP（事業継続計画）に沿って、平時より備えることを法人全体で実践します。

福祉業界の人材不足については、当法人も例外ではなく厳しい状況が続いています。今居る人材を大切にするには、それぞれが主体的に仕事ができる職場づくりが重要です。法人の歴史や伝統を理解した上で、自ら考えて新しい取り組みを生み出す柔軟な発想を大いに取り入れます。

必要な人材を得るためには、外部に対する働きかけも必須です。近隣の学校やハローワークへの求人票提出、定期的な就職説明会参加等、常に新しい人材を求める姿勢を継続します。

建物移転計画については、事業実績が目標を大きく下回り、当初計画した積立ができなかったため、再度延期としますが、延期期間を短縮できるよう、今年度こそ、各事業所とも予算必達を命題とします。

社会福祉法人 どんぐりの家 令和6年度 事業計画

(1) 通所介護事業所

以前のように定員40名に対し9割以上の利用をお受けすることができるよう、先ずは職員体制を整えることを最大の目標とします。お陰様で、ご利用希望やニーズはあります。職員の働き方も多種多様となっている今、その方に合った勤務形態の提案も含め、目の前の一人を大切に育てていける体制づくりをします。

いっどこで何が起こってもおかしくない現代社会において、BCPを十分に活用し、日頃からの備えと職員一人ひとりの危機意識を高める事業所の雰囲気づくりに努めます。

(2) 認知症対応型通所介護事業所 どんぐりの家 絆

心穏やかに一日一日を過ごしていただける雰囲気を作り、個々のご利用者に見合った対応を行うことで、認知症進行の予防、意欲向上に努めます。

前年度に引き続き生活リハビリとして、ご利用時行っている体操や、洗い物、洗濯物たたみ等、日常の中で身体を動かす事を目的とし、筋力の維持や、やりがいを持てるように支援します。

ご家族をはじめ介護支援専門員などの関係機関と密に連携を図り、本人の状態に合わせたサポート体制を作ります。

認知症になってもご利用者の「出来ること」を大切にし、ご利用者の気持ち

に寄り添える「心」を持った職員の育成に努めます。

感染症対策として、ご利用者・職員の罹患の早期発見に努め、感染源の侵入防止と感染の伝播、拡大を防ぎます。

(3) 居宅介護支援事業所

特定事業所加算算定事業所として、スタッフ自ら積極的な学びの姿勢を持ち、より一層質の高い業務遂行を目指します。

法人内外の研修に対し、目的を持って意欲的に参加し、得た知識や情報をフィードバックにより事業所や法人内で共有します。

「人生の最期を住み慣れた家で迎えたい」「要介護度が高くなっても家族の限界までは家で介護したい」というご希望に対し、綾部市内外のサービスを組み合わせながら、また介護保険以外の他制度等の利用も含めながら、多様なサービス調整支援をします。

法人内の他事業所と連携、協力体制をとり、必要に応じ法人事業のフォローをします。

(4) おこしやす

月曜日から水曜日を開所日として、「綾部市すこやかシニア教室」を実施します。「体操・口腔ケア・栄養改善」を主たるテーマとして活動し、ご利用者の健康維持に貢献します。

また、おこしやす独自のサービスである午後からのレクリエーションについては、手先を使った工作や身体を使ったゲームなど新しい事を取り入れていきます。たくさん笑って過ごしていただくことで、身体も心も健康で元気に過ごせるような空間を目指します。

(5) 配食サービス事業所

災害や悪天候時、法人内で特に優先して業務継続を行う事業として位置付けています。調理場スタッフや配達スタッフの出勤状況、調理場設備状況を元に、事業実施判断を行い、可能な限り昼食と夕食の弁当配達を継続します。

調理場スタッフが定着している今こそ、将来を見据えた人材育成を重視し、次世代のリーダー作りを実践します。

「“どんぐりの家”は、“おこしやす”は美味しい」。と言っていただけのことにも慢心せず、更なる美味しさと、衛生的な環境作りを追求します。